

ブルース BLUES

ブルースというものは、アメリカに奴隷として連れられて来た黒人が身の不幸をはかなんで歌った俗歌であったが、今日ではジャズ音楽の中に溶けこんでしまつて、四十年前のものとは大分変わった表現になっています。したがってブルースというダンスも、四十年前とはよほどちがってきていますが、茲では音楽とともに変化した今日の踊り方を記します。

普通の四拍子の音楽というものは、第一拍と第三拍にアクセントのあるのが原則であります。



日本の寄せ太鼓



Fig. 65

ところが、ブルースの音楽は、上の譜表に示しました通り、第二拍と第四拍にアクセントがあります。これは黒人達が生れ故郷のアフリカから持って来たリズムであり、黒人たちの感覚のなかには祖先以来、このような欧州人から見ると変則と聞こえるリズムが、ちゃんと伝っているのです。もっとも、このような一見不規則には、長唄も、常磐津も、清元も、本来リズムも拍子もないのだといわれ、大家の採譜した楽譜を見ると、一応小節を区切って縦線は引いていますが、到るところ三拍子と二拍子が交錯して記されていますから、わが国の古い歌は何拍子だというこ

とができないのかも知れません。ことにわが国の芝居や相撲の客を呼びこむ櫓太鼓の「テテンガテンテン」という打ち方などは第二拍子にアクセントがあり、また近頃流行の「民謡温泉」「民謡酒場」などで毎日踊っている民踊の手拍子の「チヨチヨンガチヨン」もやはり第二拍子にアクセントがあります。

とにかく、変則なりズムの打ち方というものは、黒人や日本人のような有色人種の特有のものかも知れません。

ここまで書いて来たとき、私はふと、欧州の古い舞踊曲のことが頭に浮んで来ました。私は自分の仕事の関係から欧州の古い音楽を調べているのですが、そのなかにはわが国の清元や長唄のように、三拍子、二拍子などの交錯したのがあり、ひどいのは五拍子なんぞも遠慮なくその中に厳存しているものもあります。そこで私は考えたのです。わが国に限らず、欧州でもどこでも、昔の田舎歌や、田舎踊りは、特別の作曲者なんぞいないから、拍子などを考えないで、或る器用な人間が、即興的に歌うなり、また原始的な楽器を弾じたりしたのに合せて、歌ったり、踊ったりしたのが今日まで残っているのではなからうか。これらの多くはいつのまにか人々に忘れられたなかに、比較的人心に投じたものが、何千年か、何百年かの寿命を保ち続けてその地方に伝えられたものを、今日の音楽家が採譜すると、三拍子、二拍子、五拍子が雑然と並んだ曲になるのではなからうか。

わが国には昔から支那風の記譜法、即ち、宮商角徵羽は雅楽にはありましたが、今日一般に行われている楽譜（白紙に横に五つの線を引いた楽譜）で音楽を記すようになったのは明治十二年（一八七九年）文部省に「音楽取調係」が設立されてからのことで、作曲、採譜などはそれからずっと遅れてできました。そして、古い歌や、三味線、琴などで耳から耳へ伝えられたものを五線譜に書き現わして見ると前に申したような不規則なものになります。

したがって、西洋でも、五線譜に楽譜を記しはじめるまでは、リズムなどもまちまちであったのですが、西洋では何百年も前から記譜法がすっかりして来たので、変則拍子の楽譜は近代にはあまり作られなかったのではないかと思われま

す。大そう脱線しましたが、ブルースの音楽を理解する上にいくらか御参考になると思って、くどくどしく申しました。

ブルースは四拍子で一分間22—28小節くらいの非常にゆるい音楽、今日のダンス音楽のなかでは一ばんゆっくりしてい

ます。まずレコードをかけて、一、二、三、四、と拍子をとるところから始めて下さい。

レコード

S・P (七八回転)

(四五回転)

コロムビア M—六六五、ベイジン・スリート・ブルース (二六)

" M—二四、セントルイス・ブルース (二五)

" M—四七八、サヴォイ・ブルース (三二) (EM—一九三)

" L—一、夢路まどかに (二四)

" M—一六五、センチメンタル・ジャーニー (二二)

" M—八二九、ミスター・サンドマン (二八)

" " アイ・ニード・ナウ (二八)

フィガ

ウォーク ゆるい膝を曲げたステップで、スロウ||Sと数えます。

前進 両足を揃えて立ち、両膝を弛め、左足で前にステップし、1と数えます。右足体重無しに閉じ、身体をすこし浮かし、2と数えます。それで二拍子を費したから、Sとなります。両膝を弛め、左踵を少し下し、右足で前にステップし、3と数えます。左足体重無しに閉じ、身体を少し浮かし、4と数えます。3・4は二拍を費しますから、Sとなります。つまり一小節四拍子に対し、SSと二歩ステップしますが、動作は四つに数えた方がよくわかります。

後退 両膝をゆるめ、右足で後退、1と数え、左足体重無しに閉じ、同時に右踵を下し、すぐすこし上げ右足は趾球で

立ち、2と数える。両膝を弛め、左足後退、3と数え、右足体重無しに閉じ、同時に左踵を下し、すぐすこし上げ左足は趾球で立ち、4と数える。これで四拍、SSと数えます。

サイド・シャッセ・トウ・ザ・ライト。 S Q Q S。

クォータ・ターンズ。 S Q Q S、S Q S。

ナチュラル・ターン。 S Q Q S Q Q S。

リヴァース・ターン。 S Q Q S Q Q S。

ナチュラル・ピヴォット・ターン。 S Q Q S。

リヴァース・ピヴォット・ターン。 S Q Q S。

予備練習

まずウォールスのレコードをかけて「ナチュラル・スクエア」を練習して下さい。

これは、ウォールスのところで踊った通り、曲を三拍子に聞いて、三拍子に、つまりウォールスとして踊るので、まず「ナチュラル・ウォールス・フォーム」を練習します。

つぎにウォールスのレコードを止めて、同じ足型で、同じ順序に踏むのですが、(七三頁三四図)

1 右足前へ出す、 --- 1、と称えます。

2 左足のトーを右踵のところへ寄せて、左足に体重をかけず、2と称えます。

3 左足をすこし前寄りに左側にステップして、3と称えます。